

■巻頭言	フォーラム2020によせて	1
■特集	フォーラム2020&令和二年度秋期全国研修会	2~7
	フォーラム2020報告	2
	講演「被害者の声」	2~3
	パネルディスカッション「民間団体と関係機関の連携した支援の在り方」	4
	表彰式	5
	秋期全国研修会(全体会)	6
	秋期全国研修会(分科会)	7
■お知らせ・編集後記		8

巻頭言 フォーラム2020によせて

公益社団法人全国被害者支援ネットワーク
副理事長 ● 三輪 佳久

第1 はじめに 異例づくめのフォーラム

今回のフォーラムは、新型コロナウイルス感染症の流行という前代未聞の事態で行われた異例づくめのフォーラムでした。そのため、開催日近くまで開けるかどうか不明の状態です。『新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては式次第を変更、または中止する可能性があります。そのような状況となった場合は、速やかに申込み時のメールアドレスにご連絡します。予め御了承ください』というお断りの文章が8月31日付でネットワークから関係者の方々に送られました。

このような状況で、当日予定された講演者、インタビュアー、パネリストの方々には、多大なストレス、気苦労を与えてしまったのではないかと、申し訳ありませんでした。

また、一般参加の方々にも、会場は150名定員(利用率30%)とされたため、入場時間、座席も指定制となりました。そのため、例年の満員に近い参加者で活気あふれる会場と異なり、座席にポツンポツンと参加者が座るといった形での開催となりました。

このような形で行なわれたフォーラムでしたが、内容は充実し、コロナを吹き飛ばすような講演者、パネリストの議論等で、熱気あふれた会場の雰囲気は例年と同様なものでした。

第2 第1部の「被害者の声」は、小6女児殺害事件のご遺族の御手洗様のお話でしたが、今回初めて「被害者の声」講演をインタビュー形式で行いました。被害者の方の講演でこのような形式で行なわれたのは、小生の経験でも初めてのケースでした。インタビュー形式でかつインタビュアーの能力の高さから、被害者を支援する立場から聞いてほしいと思う点を網羅して聞

いて頂き、また講演者の方も、あるいは遺族としてそのような事柄を外に表現することを躊躇したり、遠慮するのではないかとと思われる事柄についても素直に話され、充実した実りある講演でした。この講演で特に印象深く今後の被害者支援の課題の1つになるのではと思われた点は、被害者の妻、夫だけでなく、その陰に隠れた子ども達で、置き去りにされ忘れさられた兄弟姉妹に対する支援の重要性についてでした。

このような素晴らしい熱意あふれたインタビュー形式の講演に対して、会場からは感謝と共感の万雷の拍手がとぎれることなく送られました。

第3 第2部のパネルディスカッションでは、社会福祉を専門とする伊藤富士江様をコーディネーターとして、犯罪被害者遺族の赤田ちづる様、広島被害者支援センター支援統括責任者の柳原ひとみ様、危機管理を専門とする鈴木秀洋様、県警察本部少年課の芹田卓身様をパネリストとして「民間団体と関係機関の連携した支援の在り方」というテーマで行なわれました。コーディネーターの手際良く、充実した内容のコメントを含んだ進行に対応して、各パネリストがそれぞれの立場から、特に少年に対する支援の困難さ、問題点、民間団体と関係機関との連携についての課題、問題点について、経験に基づいた実践に即した形で議論して頂き、各パネリストの被害者支援に対する熱い思いが伝わり、充実した2時間でした。

第4 最後にりましたが、本フォーラムに参加された皆様、本フォーラムから犯罪被害者支援の重要性、必要性を再認識され、これからの犯罪被害者支援活動が一層充実されることを衷心より願っております。

参加者の皆様どうもありがとうございました。

発行：公益社団法人全国被害者支援ネットワーク